

プロフィール

- 1961年 沖縄県 コザ市（現・沖縄市）生まれ
- 1985年 中央大学卒
- 1998年 日野市議会議員に初当選
日本共産党公認
- 2017年 日本共産党を離党
- 2018年 無所属で当選 現在6期め

RINKO ヒストリー No.1

沖縄の祖国復帰運動が原点

りん子の生まれ育ったコザ市は、米軍基地の街。「日常茶飯に起きる基地被害に抗議さえできないなんておかしい！」と、反骨精神が芽生えました。辺野古も福島も、その地に住む人々の幸せを壊しているのは国家権力です。権力の横暴を許さないためにも、議会を監視します。



RINKO ヒストリー No.2

私のように、孤独な子育てに苦しむ人を無くしたい！

大学卒業後、教員を目指していたりん子は、弁護士を目指す夫と共に、非正規雇用で働きながら勉強する毎日だったが、仲良く挫折。子どもが大好きなりん子は、「共稼ぎなら何とかなるさ！」と、5子を出産。その後、長女13歳、長男9歳、次女7歳、次男5歳、三男2歳の時に立候補の要請があり、初当選。次男は、生まれつき足に障がいがあり、当選した年が「手術」の年に当たっていたため、半年間、都心にある国立小児病院まで、毎日通いながらの議員生活がスタート。塾講師だった夫は、夜は常に不在だったため、保育園から帰宅し寝かせるまでの間、5人の子の面倒を1人で見ながらの議員活動でした。頼る相手が全くいない子育ては過酷です。結婚や出産、育児がしやすい環境づくりがライフワークです。

障がい者・高齢者施策の充実！福祉や医療政策の後退にストップ！

三男が大学に合格し「子育てを卒業した！」と思ったのも束の間。三男は、入学式の直前に、脳内出血で倒れてしまいました。辛いにも命は取り留め、辛いリハビリにも絶えたのですが、残念な事に、記憶の障害が残りました。

同じ障害を持つ若者の居場所が無いので、今、彼は、孤独と闘っています。障がい者施策の充実、親としての務めでもあります。

また、保健所の統廃合により感染者への対応が後手に回り感染者が拡大。かつ、公立病院の削減によりベッドが足りず、自宅待機のコロナ患者が見殺しにされました。

奥野りん子は、国の医療費削減方針に反対し、命を守るために必要な

インフラ整備に全力を尽くします。

子ども包括支援センター建設に尽力！

子ども包括支援センターを「新庁舎」と呼び、「無駄遣いだ！」と攻撃する人たちがいます。しかし、奥野りん子は、「子育て分野でも、介護包括支援センターのような拠点施設が必要！」と要求。予算化を渋っていた市もその必要性を認め、建設を決定しました！



りん子だより ともに生き市政を良くする会 21年11月15日

大坂上3-25-5 080-6548-1478 rinko8okuno@gmail.com